

ジャングルジム 通信

夏期講習が無事終了いたしました

8月28日に令和4年度夏期集中授業が無事終了いたしました。今年は30名の小学生（小4→13名、小5→7名、小6→10名）が夏期講習に参加し、全員が授業を受けていた時間を合計するとぴったり5000時間となります。

この夏で全てのジャングルジム生が大きく成長したと思います。6年生は9月から毎月模試がある本格的な受験生らしい生活となります。まずはそこで夏の成長を実感してもらえることが私ども教える側の目標となっております。

第3回不合判定テストが行われました

ジャングルジム6期生となる小6諸君が9月11日に第3回不合判定テストを受験しました。

夏の成果はすぐには出ないということは中学受験でよく言われることですが、ジャングルジム第6期生はほぼ全ての生徒が7月の時点より偏差値を上げることができました。この調子で9月の勉強を高いテンションで乗り切り、10月、11月と模試を受けていながらその都度弱点を補強していき、過去問対策へと移っていきます。

二月の勝者第16巻を読みました

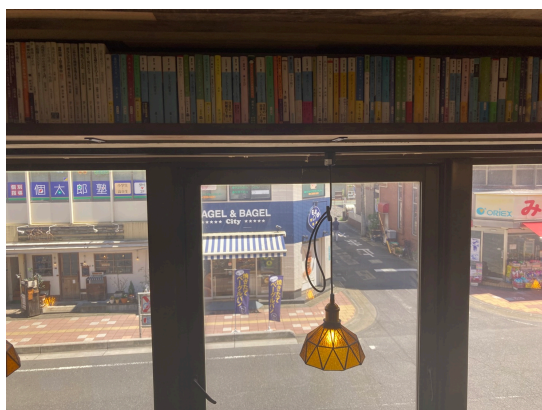
中学受験を描いた漫画でありドラマ化もされた「二月の勝者」の単行本第16巻が先日発売され、早速読みました。

この漫画は2018年から連載され始めたのですが、漫画の世界の中の中学受験生たちもやっと2月1日を迎えるという場面までやってまいりました。2018年の6年生というとジャングルジム2期生となりもう高校一年生です。先日、その中の一人が「この子たちもやっと受験だね～懐かしいな」なんて言っていました。

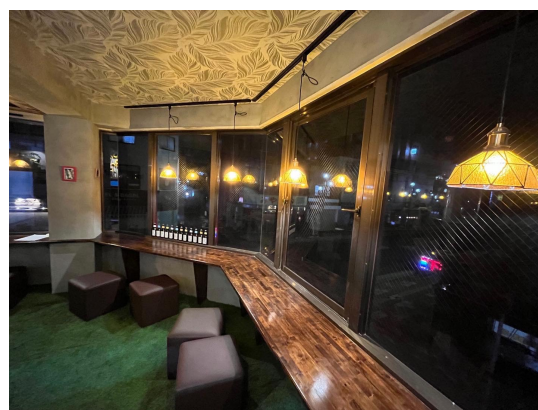
この漫画は中学受験について“塾側の目線”から描いた漫画となっていて、実際に中学受験業界で働く私などはかなり共感する部分があったり、（大手塾ってこんな感じなんだ～）ということを思ったりしています。

中学受験ってどのような世界なのかなどご興味のおありの方は、塾に全巻揃っておりますので、中学受験の塾の中で試みに読んでみるというのもよろしいのではないかと考えております。

このチラシを持参された方は塾内のスペースでゆっくり読んでいただけるようにいたします。コーヒーやお菓子もお出しさせていただきますので、お子さんがいる/いない、中学受験をする予定がある/ないを問わずどうぞお気軽に塾に遊びに来てみてください。



他にも実際に中学受験に出題された本などたくさん取り揃えております♪なかなか足を踏み入れにくいとは思いますが、地域の皆様の憩いの場にも慣れる塾というのも素敵なのでは！？



こちらの2階カウンターでゆっくりしていただけます。時折、教室内から生徒の笑い声や、熱い授業の音が聞こえてくることもあるでしょう。季節のお花も飾っておりますので是非遊びに来てください♪

全落ち（からの公立入学）は絶対に避けるべき？

中学受験率が都内に比べて高くない所沢市で、しかも大勢の受験生を抱えていない小規模な塾で働いている私は情報収集と同業者の方との繋がりのためにTwitterを活用しておりますが、たまに中学受験をテーマに議論となったり、喧嘩のようになってしまったりもしています。いつもサラッと空いた時間に眺めたりしていることが多いのですが、今回目に留まったのがタイトルにもあるように、全落ち（からの公立入学）は絶対に避けるべき？か否かということでした。

この中にあった、避けるべきであるという意見の反論として

- ・私立一貫校は一部の附属以外はすべて零細企業なので、一定のブランド力のある学校を除けば教員のほとんどは教採落ちの質の悪い負け組だ。
 - ・とにかく合格すれば自己肯定感が維持できるというのと「司法試験に落ちたらメンタル維持のためにペン習字5級でも取ってる」というのは変わらない。
 - ・全落ちしたらせっかく一生懸命に勉強したことが無駄になるという話も入試以外の場で少しも役に立たない糞ノウハウばかり勉強したことの証拠だろう。
 - ・知能が低いから「他人から具体的な評価（合格）を受けてもらわない限り失敗」みたいな発想になるのだ。
- となかなかの暴言ですが、この件についてかつて中学受験を経験し現在中学受験塾で働く一講師としての意見としては、【価値観は人に押し付けるものではない】ということをおもいました。

ジャングルジムは“登り方は人それぞれ”を理念に偏差値の高低は学校選択の目安にはなるが、その学校の価値を示しているものではないという考えで受験指導・進学指導をしております。どのような偏差値の学校であっても、偏差値表に学校名が表示されている時点で、その学校は“存続している学校＝実際に通っている生徒がいる学校”ということとなります。ですので、存在価値のない学校はひとつもないということが私どもの考えです。

そして、全落ちを避けるべきかということについて、それも人それぞれなのです。

全落ちという小学生のうちに最も残酷といえる社会の評価を下されるということを1つの合格で救われて、次の環境で上手く切り替えられる子もいれば、その合格があってもズルズルと引っ張ってしまう子もいるでしょう。さらに、あまりにも目指している学校と違う学校の合格がかえって心の傷になってしまうということもあるかもしれません。逆もあって、ひとつも合格がないまま厳しい受験生活が終了しても、高校受験でリベンジするぞと前向きになれるタイプの子もいるかと思えます。保護者の方についてもそうです。子どもがケロッとしていても親が一生のトラウマとなってしまうこともあるでしょう。したがって、私どもはまだ全落ちを塾として経験してはおりませんが、全落ちは何があっても防ぐべきだとは考えておりません。しかし、いきたい学校だけ受けてダメだったらスッキリ公立に行けばいいじゃないかと思っているわけでもありません。なぜならそこまで簡単に割り切れるほど中学受験に注がれるエネルギーは小さくないからです。

全落ちというのは、学力の高低に関わらず全ての受験生が経験する可能性のある受験における最大のリスクです。

特に浪人が決してできないという中学受験の性質上、全落ちはことさらに大きなリスクといえます。

このリスクを防ぐためには、①学力を高める②当日しっかりと実力を出せるように準備する という大前提となる2点に加えて、③併願パターンをしっかりと組むということが必要です。特に③の併願パターンについてジャングルジムでは、受験生のご家庭と何度も何度も面談を重ねて、行きたい（行かせたい）学校に進学できるような体制を固めて2月を迎えるようにしています。もちろん第一志望に合格・進学することが最善かつ最大の目標であることはいうまでもありません。しかし第一志望の学校に笑顔で進学できる人の割合は25～30%とも言われている現在の中学受験では第一志望の学校“以外”の学校とどのように向き合っていくかということが何よりも重要だと何気ないTwitterのタイムラインから再度思い直しました。ここからは6期生が全員幸せな春を迎えられるよう全てを捧げて取り組んでまいります。



ジャングルジム通信へのご意見やご感想、
このような記事を書いてほしいというご要望等
ありましたらお気軽にLINEを送ってください。

公式LINE



中学受験専門塾ジャングルジムの
ホームページはこちら